



# 草津小学校の総合学習が新聞で紹介されました。

## 教育 ナウ

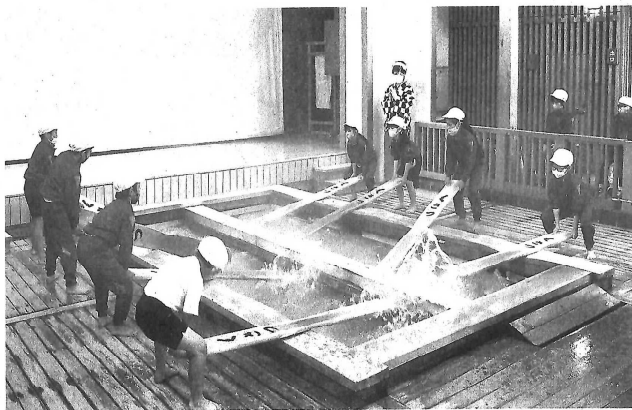
### 草津小 地元愛育む「よいとこ学習」

# 地域や社会 担う意欲を

日本一の湧出量を誇る温泉、豊かな自然が広がる火山。さまざまな資源に囲まれ、年間を通して多くの観光客が訪れる草津町。その一角にある草津小（丸山三美校長）は、本年度から魅力ある地元の歴史や文化を学ぶ「草津よいとこ学習」を始めた。6年間継続して学ぶことで、地元愛を育むとともに地域社会の一員としての自覚を高め、課題解決への力を養うことが狙いだ。

「すいご上手」「足が痛い」。湯畑近くの観光施設「熱乃湯」に子どもたちの元気な声と、お湯をはしく音が響く。1日に行われた2年生の授業風景だ。児童たちは、温泉図書館や体育館など町内の施設を歩いて見学し、草津温泉の伝統である湯もみを体験した。小林稜君（う）は湯もみは疲れたけど、すごい楽しかった。いろんなところに行くと、草津の良いところがいっぱい見つかった」と

が響く。1日に行われた2年生の授業風景だ。児童たちは、温泉図書館や体育館など町内の施設を歩いて見学し、草津温泉の伝統である湯もみを体験した。小林稜君（う）は湯もみは疲れたけど、すごい楽しかった。いろんなところに行くと、草津の良いところがいっぱい見つかった」と



湯もみ体験する2年生

### 教材に防災学習副読本

利根川水系砂防事務所が制作

草津よいとこ学習では、国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所が制作した防災学習副読本「白砂川ふるさとの山と川の物語」を教材として活用。草津町と中之条町六合地区を流れる白砂川の流域の防災の仕組みなどを解説するほか、草津町や旧六合村の自然や歴史、文化、暮らしなどを幅広く紹介している。

学年重ね深化  
地域についての学習は、これまで校外学習や郷土学習を実施していたが、学年や一般教科とのつながりが少なく一貫性がなかったことから年間の授業計画を見直し、各学年ごとにテーマを設定。家族や学校など身の回りのことを中心に学ぶ低学

笑顔を見せた。

年から、町の歴史や福祉を学習する中学年、火山と温泉の関係、観光地としての草津など学ぶ高学年と、学年を重ねることに学習内容の深化を図る。高学年では、児童それぞれに興味を持ったテーマに沿って、課題研究をまとめる。

新型コロナウィルスの影響で、初年度となる今期は計画通り実施できていない状況だが、9月には、観光協会の職員が6年生に、草津の魅力や入浴の秘密などを伝える授業や、障害への理解促進に取り組みDEET群馬

丸山校長は「生まれ育った草津町への愛情を持ったという、将来社会を担う意欲を育てていきたい」と説明。加えて「子どもたちだけでなく、教員も町のことを知る良い機会になっている。教員が町に愛着を持つことで、子どもたちにも知識の還元ができる」と波及効果を期待する。

### 発信や連携も

インバウンドの観光客も多く、外国人と接する機会が多いことから、今後は小学校で学んだ知識を基に、英語を使って地元の魅力を発信できるように、小学校だけでなく、園や中学校との連携も見据える。



### 「障害」考え理解

DEET群馬 小学校授業

草津 障害について考える特別授業が18日、草津町の草津小（丸山三美校長）で開かれた。4年生34人がイラストやビデオを通して、障害について理解を深めた。各地で障害平等研修（DEET）などを行っているDEETの代表者として、草津町の飯島邦敏代表らメンバー3人が講師を務めた。児童たちはグループに分かれ、車いすの女性が買い物する様子が描かれたイラストを見ながら、

授業を受けた横山愛乃さんは「障害者は普通の人と違って大変そうだなと思っていたが、差別がなければ私たちと変わらず、幸せに暮らせると知った」と話していた。福祉の授業の一環として、町社会福祉協議会が主催して実施した。どこに「障害」があるのかを話し合った。「段差が大変」「高いところの商品が取りづらい」など、さまざまな意見が出た。身体障害による日常の不便や差別などを伝える映像も鑑賞した。

しらすながわ  
**白砂川**  
ふるさとの山と川の物語  
(草津町・中之条町六合地区編)

